

九三 富木入道殿御返事

此^{このころ}比^①は十一月下旬なれば、相州鎌倉に候し時の思には、四節の轉變は萬國皆同かるべしと存候し處に、此北國佐渡國に下著候て後、二月は寒風頻に吹て、霜雪更に降ざる時はあれども、日の光をば見るることなし。八寒を感^ス現身^ニ。人の心は同^ク禽獸^ニ不知^ニ主師親^ヲ。何況^ニ佛法の邪正師の善惡は思もよらざるをや。此等は且置^ク之^ヲ。去十月十日に付られ候し入道、寺泊より還し候し時、書遣^{キハシ}法門^ヲ候き。推量候らむ。已に眼前也。佛滅後二千二百餘年に月氏・漢土・日本・一閻浮提の内に天親龍樹内鑑冷然外適時宜云云。天台傳教は粗釋^{ハズ}し給へども弘^ム殘^レ之^ヲ一大事の祕法を此國に初て弘^ム之^ヲ。日蓮豈非^ニ其人^ニ乎。前相已に顯れぬ。去正嘉之大地震^②前代未聞の大瑞也。神世十二、人王九十代、佛滅後二千二百餘年未曾有の大瑞也。神力品云、於^テ佛滅度後能持^ツ是經^ヲ故諸佛皆歡喜^{シテ}現^ス無量神力^ヲ等云云。如來一切所有之法^③云云。但此大法弘^ムまり給^ハならば爾前迹門の經教は一分も益なかるべし。傳教大師云、日出星隱^ル云云。遵^シ式記^ニ云、末法^ノ初照^ス西^ニ等云云。法已に顯れぬ。前相先代に超過せり。日蓮粗勘^ハ之^ヲ是時の然らしむる故也。經云、有

【系年】文永八年十一月廿三日(50) 於佐渡塚原 【寫】朝師本 【刊】外 2326 遺 1141 縮 702

【註】徹下 38 考 828

①は十(文永八年)② ②二十(三)③ ③大地震=地動④ ④法十(乃至)⑤ ⑤まり=らせ